

2023-2024 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 8月

作成者：永井みちる

作成日：2023年9月9日

皆様、初めまして。この度、2023年度の福井県奨学生としてフィンドレー大学に留学させていただいております、永井みちると申します。福井県奨学生としてこのような素晴らしい留学の機会をいただけたことを心より嬉しく思っております。福井県国際交流協会の方々をはじめとし、この留学を支えてくださっているすべての方々に感謝し、日々努力してまいりたいと思います。

自己紹介

私は現在、福井大学医学部医学科の2年生です。アメリカに住んでいたことのある両親の影響で、幼いころからアメリカの大学への憧れがありました。また、国際語である英語を習得すること、他分野の学問に触れること、そして異なる背景を持つ人々との関わりが自分の世界を広げ、医師としての素養を培うと考え、アメリカへの留学を決意しました。この10か月は語学の習得に励むだけでなく、人との出会いと交わりを大切に過ごしていきたいと思っています。

フィンドレー大学について

フィンドレー大学はアメリカ・オハイオ州の北西部に位置する小さな町、フィンドレー市にあります。日本との時差はなんと-13時間で、羽田空港からデトロイト空港への直行便で12時間、さらにそこから車で1時間半ほど離れたところにあります。教育学部や薬学部など様々な学部がありますが、獣医学部をはじめとした動物に関わる勉強をしている学生が多いように感じます。また日本語を学ぶ学生もいます。

生活について

キャンパス内は緑が多く、リスやウサギを毎日のように見かけます。芝生に寝そべって課題をしている学生やハンモックに揺られている学生もいて、このキャンパスの穏やかな雰囲気がとても気に入っています。

学生の多くはキャンパス内にある寮またはグループハウスで暮らしています。留学生の多くは一軒家をシェアするグループハウスに住み、私も日本人3人、アメリカ人2人の計5人で生活しています。5人中3人は一人部屋ですが、私はアメリカ人のルームメイトと二人で部屋を使用しています。彼女は同い年の水泳の学生アスリートで、朝早くから練習に行き、そのあとに授業に行くというなかなかハードな生活をしています。私も初心者ですが福井大学では水泳部に所属しています。水泳という共通点もあり仲良く過ごしています。ハウスメイトはみなきれい好きで思いやりがあり、いまのところ特に問題もなく快適に生活しています。



5人で暮らすグループハウス

キャンパス内には食堂やカフェ、フードコートがあります。食堂はミールプランに申し込むことで利用でき、カフェやフードコートでは Derrick Dollars と呼ばれる学内で使える通貨を利用します。食堂はビューフェスタイルで、ハンバーガーやピザはもちろんアレルギーに配慮された食事まで、好きなものを選んで食べることができます。フードコートには寿司やチャーハンなどアジアの料理を扱っているお店もあり、



ある日の食堂での食事

とてもおいしいです。ほとんどの日本人留学生はミールプランを利用して食堂で食事をしているようですが、私は基本的には自炊をして生活しています。毎週土曜日には Walmart というスーパーへのシャトルバスが出ており、また大学近くにはアジアンスーパーもあるので自炊するのに問題はありません。先日、Walmart で鍋の具材になりそうなものを探していたところ、なんと白菜を見つけました。こちらでも普通に食べられているのでしょうか。

8月の出来事

・オリエンテーション

到着して最初の1週間は新入生のためのオリエンテーションがありました。毎日様々なイベントが開催され、楽しくも忙しい1週間でした。中でも印象的だったのはボランティア活動です。ランダムに振り分けられたグループで教会や劇場などに行くのですが、私たちのグループはリサイクルショップで木の板を積み直す作業をしました。同じグループの学生に勇気をかけて話しかけたところ、初めて現地の友達ことができました。

オリエンテーション期間のイベントの1つ、Movie night



・牛丼パーティー

日本人留学生の友人の提案で、現地の学生を集めて牛丼を振る舞いました。アメリカには薄切り肉がなかなかないと聞いていたので心配していましたが、ケバブ用の薄切り肉で代用し、想像していた通りの牛丼を作ることができました。現地の学生もとても喜んでくれて、楽しいひと時となりました。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

nagaim@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 9月

作成者：永井みちる

作成日：2023年10月9日

10月になり、半袖で快適に過ごせていた日々から一転、ここ数日はダウンが必要になるほど寒い日が続いています。アメリカに来て2か月が経ち、だいぶこちらの生活にも慣れてきたと同時に、慣れてきたためにたるんでいると感じる日もあります。10月になったこのタイミングでもう一度気を引き締めて、日々努力してまいりたいと思います。今回は、秋学期に履修している授業の一部を紹介します。

授業について

私は現在、学部コースに所属しています。学部コースでは、12~18単位の中でクラスをとることができます。多くのクラスは3単位で、週に2回か3回授業があり、2回のは火曜日と木曜日に75分ずつ、3回のは月曜と水曜と金曜に50分ずつとなっています。

私は今学期、留学生向けの Writing、宗教学(The Jewish and Christian Traditions)、犯罪学(Self-Defense/ Stress Management)、Selected Topics in Japanese (Japanese Film)、Experiences in Japanese (Genki Kids)、ギターレッスンの5つの授業を履修しています。今回はそのうちの2つを紹介します。

Fall'23					
Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
10:00AM	MUSC				
11:00AM	RELI RELI	CJUS CJUS	RELI RELI	CJUS CJUS	RELI RELI
12:00AM	ENIN ENIN	CJUS	ENIN ENIN	CJUS	ENIN ENIN
1:00PM					
2:00PM					ENIN ENIN
3:00PM					
4:00PM					
5:00PM		JAPN Film JAPN Film	Genki Kids Genki Kids		
6:00PM					
7:00PM				JAPN Film JAPN Film	
8:00PM				JAPN Film JAPN Film	

MUSC: Music RELI: Religious Studies ENIN: Intensive English Language Program CJUS: Criminal Justice

JAPN: Japanese

・ Writing Review I for Non-Native Speakers

これは学部コースに所属する、英語を母国語としない学生に必修の英語のライティングの授業です。留学生の多くは IELP (集中英語コース) か大学院コースに所属しているため、全部で10人ほどの小さなクラスです。クラスメイトは日本人、ベトナム人、コロンビア人、インド人など様々です。これまでに、Summary と Argumentative Essay の書き方について学びました。Argumentative Essay 一つをとっても参考資料の探し方、資料

の要約、引用の書き方などいくつも過程があり、一つ一つ丁寧に学んでいきます。先日は Argumentative Essay を書く過程の一つとして、主張の根拠が十分に説得力のあるものかを確認するためにプレゼンテーションを行いました。留学に来て初めてのプレゼンテーションで不安もありましたが、留学生のみのクラスでとにかく挑戦！という雰囲気があったためあまり緊張せずに終えることができました。今後もライティングの授業では特に挑戦を恐れず、積極的に取り組んでいきたいです。

・ Selected Topics in Japanese (Japanese Film)

これは日本の映画や日本の歴史に関する映画を見てディスカッションをする授業です。日本語を学ぶ学生と日本人留学生が半数ずつです。これまで見た映画は、『おくりびと』『どろろ』『からゆきさん』などです。ディスカッションを通して、私たち日本人にとって当たり前になっている習慣や文化の中に、日本人特有の考え方や宗教的背景があることに気が付きました。また、これまで見た映画の中には日本では教えられないことのない隠された歴史をテーマにしたものもあり、「当たり前」や自分の置かれた環境を別の視点から見直すことの重要性を実感しました。

・ Introduction to Applied Music (Guitar)

毎週月曜日の朝にマンツーマンのギターレッスンを受けています。中学生のころから独学でギターを学んでいて、ここ数年はあまり弾いていなかったのですが、以前からちゃんと習ってみたいという思いがありました。コードの構成や新しい演奏法、難しくて避けていたコードの抑え方のコツなど、自分で YouTube などを見て学ぶだけでは知らなかったことを多く習い、上達のスピードが格段に速いように感じます。まさかアメリカでギターを習う機会に恵まれると思っていませんでした。この機会を生かして楽しく学んでいきたいと思います。

9月の出来事



・ Cedar Point

8月の終わりから2週間ほど、Kake Ambassador Program という留学プログラムで、加計学園の学生がフィンドレー大学を訪れていました。そのプログラムの一環で、私たち留学生と日本語を学ぶ学生も加わり、大学から車で一時間半ほどのところにある Cedar Point という遊園地遊びに行きました。聞いたことのない Cedar Point という名前あまり期待をしていなかったのですが、富士急ハイランド並みの大きなジェットコースターがいくつもあり、世界観も作り込まれていて1日あっても足りないと思うくらい楽しむことができました。途中で一度、遊園地を出て近くの有名なアイス屋さんに行きました。ア

メリカのアイス屋さんはどこも一番小さいサイズでも日本の一番大きなサイズ位ありますが、ここのアイス信じられないくらい大きかったです。右の写真は私が注文したスモールサイズのアイスです。これでスモールサイズです。三人がかりでも食べきるのに苦労しました。



・ Fall retreat

フィンドレー大学はキリスト教の大学で、クリスチャンの学生が多くいます。Campus Ministry という団体がクリスチャンの学生に向けてバイブルスタディをはじめとした様々な活動をしていて、その活動の一環で週末の1

泊のキャンプに参加しました。グループに分かれて聖書にまつわるゲームをしたり、聖書を読み考えたことをシェアしたり、焚火を囲んでワーシップソングを歌いました。夜にはキャンプ場のキャビンで、マットレスだけあるベッドに持参した寝袋またはシーツと毛布を敷いて眠ります。二日目の朝にはキャンプ場内の池で洗礼式が行われました。今回のキャンプでは4人の学生が洗礼を受け、一人一人が洗礼を受けるに至った経緯を話し、Campus Ministryの牧師が洗礼を授けました。話している内容をすべて理解することはできませんでしたが、みんなが真剣に見守る中、時に涙しながら自分の経験を話す姿はとても印象的でした。また、フリータイムには学生の一人と日本の宗教観やフィンドレー大学の日本人留学生について話し、日本人留学生のために毎週一緒に祈ろうとってくれました。知り合いがあまり多くない中の参加で不安も多くありましたが、実りが多く、勇気を出して参加してよかったです。ここで得たつながりを今後も大切にしていきたいです。



フリータイムのパドルボート



焚火を囲んでワーシップ

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

nagaim@findlay.edu

あつという間に11月になり、秋学期も残り一か月です。10月31日には初雪が降り、昨年福井で冬を過ごして雪や寒さにはなれたつもりでしたが、10月の雪には驚きました。寒さ対策をしっかりと、これから本格的にやってくる冬に備えたいと思います。今回は、前回に引き続き秋学期に履修している授業と、10月の活動について紹介します。

授業について

・ The Jewish and Christian Traditions

この授業は宗教学の中の一つの授業で、ユダヤ教とキリスト教の伝統について学んでいます。もともと宗教に興味があり、また昨年留学していた田中さんに勧められたこともあり履修することに決めました。これまで、資料や動画を通して、ユダヤ教とキリスト教の違い、ユダヤ教の伝統行事、ホロコースト、旧約聖書などについて学びました。今学期履修している授業の中で最も難しいですが、授業内容が面白く、授業形式もクイズや動画鑑賞などで、楽しみながら学んでいます。

・ Self-Defense/ Stress Management

この授業は、実際に体を動かして護身術を学ぶ授業です。テコンドーを基本として、手をつかまれた時の対処法など実践的な護身術を学びます。日本ではあまり聞かないという理由で履修しましたが、この先護身術を学ぶことはおそらくないと思うので、いざという時は実践できるようしっかりと覚えていきたいと思っています。

・ Experiences in Japanese (Genki Kids)

Genki Kids は現地の小学生に日本語を教える授業です。学生が毎回二人ずつテーマに沿った日本語を教え、そのほかの学生は子どもたちとペアになって一緒に学びます。全6回の授業の後、7回目は子どもたちの家族に向けて発表会を行います。これまでは、あいさつ、カタカナ、曜日などを学びました。私のバディは8歳の女の子で、毎回授業の前の雑談の時間に前の週に覚えた日本語を嬉しそうに披露してくれます。自分の母国語を楽しんで学んでくれるのは想像以上に喜ばしく、子どもたちが成長した時、少しでも私たちのことを覚えて日本に興味を持ってくれたらうれしいです。

10月の出来事

・ Chicago

4日間の秋休みを利用して、同じ中学高校に通った友人が住むシカゴに遊びに行きました。フィンドレーからシカゴは車で5時間ほどで、今回はUberとバスを乗り継いで行きました。シカゴまで予定ではバスで残り一時間というとき、地図アプリで現在地を確認すると到底一時間では着きそうにない位置におり、シカゴとフィンドレーの間には1時間時差があるということに気が付きました。国内で時差があるという日本ではない、不思議な体験でした。一日目と二日目はシカゴ美術館や展望台、シカゴピザなど定番の観光地を回りました。三日目は、友人が通うシカゴ大学



3年ぶりに一緒に登校

を案内してくれました。フィンドレー大学のキャンパスもとても大きく感じますが、シカゴ大学のキャンパスはその何倍も大きく、『ハリー・ポッター』を彷彿とさせる歴史ある建物と映画の撮影にも使われたという現代的で洗練された建物に圧倒されました。それでもアメリカの大学の中では中規模だというのが驚きです。また、友人を含め何人かで一緒に教会に行ったり昼食を食べたりして、ただ観光するだけではできない多くの出会いがありました。アメリカに限らず台湾や中国など、様々なバックグラウンドをもつ志の高い同年代の人々から刺激を受け、良い経験となりました。

・ Halloween

アメリカのハロウィンは日本とは比べ物にならないほど盛大です。ハロウィン当日の二週間ほど前から、大学のキャンパス内では毎日のようにハロウィンイベントが開かれました。また、ダウンタウンではハロウィンパレードが行われ、家はパンプキンやライトでデコレーションされます。私はトウモロコシ畑の中に作られたお化け屋敷やハロウィンパレードを訪れました。またハロウィンの時期にはホラー映画を見るのが定番で、毎週のように友人の家に集まってホラー映画をみました。金曜日の夜に映画館にホラー映画を観に行った後、おしゃべりしながら訳もなく徹夜をしたのはいい思い出です。



タバコを吸うカボチャ



Pumpkin carving



Five Nights at Freddy's

・ ボランティア活動

今月は二つのボランティアに参加しました。一つ目は Mobile Food Pantry です。Mobile Food Pantry は食料に困るオハイオ州北西部の 400 世帯以上を支援する活動です。今回はフィンドレー大学が会場となり、ボランティアの学生は大学の駐車場で寄付により集まった食料を車のトランクに積んでいく役割をしました。二つ目は、City Mission の夕食ボランティアです。City Mission は住居と食料を必要としている人々を支援する団体で、その活動の一環として食事のサービスがあります。寄付された食材から食事を作り、必要とする人々に配給します。食事のサービスは毎日行われていて、10 月は 3 回参加しました。キッチンの裏には寄付により集められた食材が保管されるとも大きな倉庫があり、アメリカは地域のボランティア活動や寄付などによるサポートが手厚いと感じました。City Mission のボランティア活動は、今後も継続して行っていききたいと思います。



Mobile Food Pantry

10月はイベントが多く、一気に交友関係が広がったと感じた月でした。多くの留学生や現地の学生は、これまでフィンドレー大学に来た日本人留学生とたくさん良い時間を過ごしたからと、私たちにもとてもよくしてくれます。私がいま、留学生生活を多くの友人と楽しく過ごすことができているのも、これまでにフィンドレー大学に留学された多くの先輩方のおかげだと日々感じています。改めて、ここまで日本とフィンドレー大学の絆をつないでくださった先輩方と、この留学を支えてくださるすべての方々に心より感謝申し上げます。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

nagaim@findlay.edu

今年も残りわずかとなりました。11月は学期末の試験やプレゼンテーションに備え、勉学に励んだ一か月でした。今回は、福井県のアメリカ国際ビジネス研修、Thanksgiving、Spanish table、学期末のプレゼンテーション、そして半期で帰ってしまう日本人留学生の Farewell party についてお伝えします。

アメリカ国際ビジネス研修

10月30日から11月9日まで、福井県から6人の社会人の方々がフィンドレーを訪れ、ビジネス研修を行いました。参加者の方々は様々な企業を訪問し、プレゼンテーションを行っているようでした。私は福井県奨学生として食事を共にさせていただき、また大学で行われたプレゼンテーションを拝見させていただきました。私は大学入学を機に福井県に来たため、普段は大学や病院関係以外の方々との交流はほとんどありませんでした。皆さんのお話の中で、素晴らしいサービスや商品を全国、そして世界に提供している企業が福井県には多くあることを知りました。それと同時に福井県とフィンドレーは留学による交流だけでなく、企業同士の交流を通じた深い絆があることを改めて実感しました。

Thanksgiving holiday

アメリカでは、11月の第4木曜日は Thanksgiving と呼ばれる祝日です。秋の収穫に感謝し、多くの人が家族で集まります。私はルームメイトの実家に招待させていただき、アメリカの伝統的な Thanksgiving を体験させていただきました。車でオハイオ州を南西に2時間ほど行くと、彼女の実家につきました。彼女には年の離れたお姉さんが2人いて、それぞれ3人ずつ子供がいます。そのうち5人は3歳以下で、滞在中はとても賑やかで楽しい時間を過ごしました。Thanksgiving の特徴の一つは食事です。日本のお正月のように、Thanksgiving に食べるものは伝統的に決まっており、代表的なものには七面鳥、マッシュポテト、グリーンベーンキャセロール、パンプキンパイなどがあります。七面鳥丸々一羽を調理する様子は迫力があり、とてもおいしかったです。翌日の金曜日は Black Friday といい、どこのお店でも大規模なセールが行われます。ルームメイトのお姉さん2人が朝5時半からショッピングに行くというので私もついていこうと気合を入れたのですが、私と彼女は結局起きられず、大学に帰る途中でモールによって買い物をすることにしました。アメリカの Thanksgiving を体験することは、私の留学の目標の1つでした。暖かく迎え入れてくださったルームメイトと家族の皆さんに心から感謝します。



Spanish table

今学期はスペイン語専攻の友人が週に三回、学内のフードコート近くにあるテーブルの1つで Spanish Table を行っていました。Spanish Table とはスペイン語を学ぶ学生や興味のある学生がそのテーブルに立ち寄り、スペイン語を学ぶというものです。中学生の時に一年だけスペイン語の授業をとっていたことがあり、またいつか勉強

したいと思っていたので、先月から時間のある時は Spanish Table に立ち寄るようにしていました。はじめはスペイン語専攻の友人のほかに、スペイン語を母国語とするコロンビア人の友人2人と4人で勉強していることが多かったのですが、回を重ねるごとにほかの留学生もたくさん参加するようになり、だんだんとスペイン語だけでなく、お互いの言語も教えあうようになりました。言語を学ぶことは、文化を学ぶことでもあります。来学期も Spanish Table を通して様々な言語と文化の理解を深めていきたいと思います。



プレゼンテーション

学期末に差し掛かり、それぞれの授業でこれまでの集大成として、レポートやプレゼンテーションが課されました。レポートは頻繁に課題で出されるためそこまで苦労はしませんでした。プレゼンテーションは大学生になってからはほとんど経験がなく、それに加えて英語で行わなければならないということでもかなり不安でした。特に苦労したのが日本映画の授業です。私は映画『君の名は。』に出てくる「かたわれ時」という造語が万葉集に出てくる「かわたれ時」に由来しているという考察から、日本の古典文学の中にみられる時間を表す言葉と、その当時の人々の生活について発表しました。日本語の言葉の深い意味まで英語で表現することがとても難しく、プレゼン前の数日は毎日夜遅くまで家に帰らずにパワーポイントと格闘していました。精一杯準備はしたものの、結果は悔いの残るものでした。プレゼンテーションをうまくできるようになるには、練習と実践の積み重ねが欠かせないと思います。将来人の前で話すことがどれだけあるかはわかりませんが、どんな仕事をしていても避けては通れない道だと思います。来学期はスピーチの授業をとる予定なので、この留学を通して人前で話すことに慣れたいと思います。

Farewell party

私たち日本人留学生は全部で19人いますが、その中でも約半数の8人が今学期で帰国してしまいます。11月末に Farewell party が開かれ、50人以上の人が彼らを見送るために集まりました。一人一人のスピーチを聞きながら、それぞれが同じ留学を通して違う経験をしたことを知り、そしてあまりにも時間の流れが速いこと、また自分自身も多くの人の支えの中でこれまでの留学生活を過ごしていることを実感しました。日本全国から来た8人とここフィンドレーで出会い、4か月間の時間を共に過ごすことができたこと、心から嬉しく思います。私も残りの時間、一日一日を大切に過ごしていきたいです。



本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。
nagaim@findlay.edu

あけましておめでとうございます。留学もいよいよ後半に差し掛かりました。新しい学期に向けて期待と緊張が高まってきています。期末テストが終わってからの1か月間の冬休みに南米を旅行して回り、最後にカリフォルニアで行われたカンファレンスに参加したので、今回はその様子についてお伝えします。

ペルー旅行

冬休みに入ってからすぐ、親戚が住むペルーの首都リマを訪れました。彼らとは12月9日から12月22日の約2週間を共に過ごし、その期間にリマ旧市街、マチュ・ピチュ、そしてアルゼンチンのイグアスの滝を訪れました。

今回の旅で最も期待していたのがマチュ・ピチュです。世界遺産であるマチュ・ピチュは、アンデス山脈の標高約2450mに位置するインカ帝国の遺跡です。山裾からは存在が確認できない奥まった場所に位置し、スペインが侵略した際のインカ帝国の人々の最後の砦だったといわれています。マチュ・ピチュへは、リマから飛行機でクスコへ行き、そこから車と列車で1時間ほどかけてマチュ・ピチュ村へ行きます。そこから遺跡へはさらにバスで30分ほどかかり、1911年にアメリカの探検家ハイラム・ビンガムに発見されるまで見つからなかったというだけあり、たどり着くまでで一苦労です。遺跡の入り口から15分ほど山を登ると、山肌につくられた広大な段々畑が見えてきます。そこからさらに15分ほど登っていくと突然視界が開け、見下ろした先に石造りの神秘的な街が忽然と姿を現します。山々に囲まれ、広い空と緑に包まれた美しいその街はまさに「空中都市」という言葉がぴったりで、ジブリ映画『天空の城ラピュタ』を思わせる壮大な景色でした。インカ帝国は優れた文明を持っていましたが、文字を持っていなかったといわれており、マチュ・ピチュが何のために作られたのか、どのように建てられたかなど、現段階ではすべてが予測ではありません。特に発達していた技術の1つが石造建築で、遺跡の壁は形成する巨大な岩一つ一つが不思議なくらいぴったりと重ね合わさっていますが、人間以外の力が働いているとしか思えないほどの技術だそうです。多くの謎に包まれているからこそ、マチュ・ピチュはこれほどまでに人を引き付けるのかもしれない。石造りの街の中を歩き、風を感じながら山々を見下ろし、500年前の人々の生活に思いを馳せると、当時の人々の声が聞こえ、姿が見えてくるようでした。小学生のころ教科書に掲載されている写真を見てからいつか訪れることを夢に見ていましたが、実際に目の前に広がる景色は、期待をはるかに超えるものでした。死



ぬまでに、必ずもう1度は訪れたいです。

マチュ・ピチュからリマに戻り、叔父の知り合いがリマの旧市街を案内してくださいました。中心となるアルマス広場の周りには、大統領府、リマ市庁舎、カテドラルなど、政治や経済の中心となる建物が並んでいます。リマは、スペインの軍人フランシスコ・ピサロによって、インカ帝国を滅ぼした際の南米支配の拠点として設立されました。市庁舎を案内していただいた際に、市議会が行われる部屋の前中央にフランシスコ・ピサロの肖像画が飾られていました。ペルーの人々はスペインの侵略に対してよくないイメージを持っていると思っていたのですが、ペルーの多くの人々にはスペインの血が流れていて、国民は歴史の一部として捉えているそうです。スペインによる侵略の前から、リマは他の民族によってかなり秩序が保たれた街になっていたようで、その民族のリーダーの肖像画も飾られていました。

イグアスの滝は、ブラジルとアルゼンチンの国境に跨る世界最大の滝で、北米のナイアガラ、アフリカのヴィクトリアと並んで世界三大瀑布のひとつに数えられています。私たちはより近くから滝を見ることができるアルゼンチン側を選びました。イグアス国立公園内はハイキングコースがあり、植物やカラフルな鳥、動物などアマゾンの自然を楽しむことができます。滝に近づくにつれゴーという音が聞こえてきて、すさまじい水量の滝が何十メートルもの水しぶきを上げて流れていました。滝を遠くから眺めるだけでなく、滝の上をとったり、下から近づいたり、いろいろな角度から見るができます。ここ数年に立て続けに起こった嵐の影響で多くの橋が破壊され、期待していたより滝に近づくことはできませんでしたが、視界いっぱいに広がる滝は圧巻でした。



コロンビア

ペルーを出発して向かったのはコロンビアです。フィンドレー大学で出会ったコロンビア人の友人ソフィアがせっかく南米に行くならコロンビアにもおいでとってくれたので、11月の初めごろに急遽予定を変更してコロンビアに5日ほど滞在することにしました。今回訪れたのは彼女の故郷、コロンビアの首都ボゴタから飛行機で1時間ほどのアルメニアです。遊園地に行ったり、ソフィアの親戚と共にクリスマスをお過ごししたりと、盛りだくさんの5日間を過ごしました。コロンビアではクリスマスが近づくと必ず行う伝統的なイベントがあります。家族や友人で集まってマラカスをもって祈り、歌い、クリスマスフードを食べるのです。クリスマスイブまでの間、街を歩いていると毎日どこかの家から祈り歌っている声が聞こえてきます。私もソフィアの友人の家で、そして彼女の親戚と、2回このイベントに参加しました。コロンビアはカトリック教徒が大半を占める国だけあって、クリスマスのお祝いは期間が長く、盛大でした。



コロンビアで最も印象的だったのは人々がとても親切だったことです。私が出会った多くの人はほとんど英語を話さなかったですが、スペイン語を全く理解してない私に興味を持ってたくさん話しかけてくれました。別れ際には写真を撮って、またコロンビアにおいでと声をかけてくれました。空港でWi-Fiがなくソ

フィアと会えずに困っていたら携帯を貸してくれた人もいました。暖かい人々に囲まれ、最高の思い出になりました。

Equipper Conference

JCFN (Japanese Christian Fellowship Network)が主催する EC (Equipper Conference)がカリフォルニアで開かれ、参加してきました。ECは、海外、主に北米でクリスチャンになった日本人を、日本に帰国する前に equip する（備える、整える）ことを目的とした5泊6日のキャンプです。帰国者クリスチャンだけでなく、彼らを日本に送り出す側のアメリカ、カナダ全国から集まってきた人々、そして彼らを受け入れる側の日本から来た人々が集まる、250人ほどの大きなカンファレンスでした。プログラムは全体集会、バイブルスタディ、スモールグループディスカッション、テーマ別ワークショップなどです。毎日たくさんのことを学び、そこで出会った友人たちと夜遅くまで語り合う、密度の濃い6日間でした。ここで得た学びと、素晴らしい出会いをエネルギーとして、残り4か月のアメリカ生活を走り抜けたと思います。



本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。
nagaim@findlay.edu

新学期が始まり、1か月が経ちました。今月は、春学期の授業、Diversity Dayについて報告します。

春学期の授業

今学期は、秋学期にも履修していた、留学生向けの Writing、Experiences in Japanese (Genki Kids)に加え、スピーチ (Principles of Public Speaking)、日本文化 (Introduction to Japanese Culture)、宗教学 (Pop Culture and Religion: Methods and Theories in the Study of Religion)、合唱の授業を履修しています。

Spring'24					
Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
8:00AM	ENIN ENIN				
9:00AM	ENIN ENIN		ENIN ENIN		ENIN ENIN
10:00AM	RELI RELI		RELI RELI		RELI RELI
11:00AM		COMM COMM		COMM COMM	
12:00AM		COMM	JAPN JAPN	COMM	JAPN JAPN
1:00PM					
2:00PM					
3:00PM					
4:00PM	Choir Choir Choir	JAPN JAPN	Choir Choir Choir		
5:00PM				Genki Kids Genki Kids	

ENIN: Intensive English Language Program (Writing) RELI: Religious Studies (宗教学)

JAPN: Japanese (日本文化) COMM: Communication (スピーチ) Choir: 合唱

・スピーチ (Principles of Public Speaking)

この授業では、スピーチの構成の仕方などを学び、学期を通して4種類のスピーチを行います。人前で話すのは日本語でも苦手で、それに加えて日本の大学ではプレゼンテーションをする機会がほとんどなかったため、それを克服するためにフィンドレー大学に留学したらこの授業を取ろうと決めていました。いざ受講してみると苦手なものはやはり苦手で、授業が始まって1週間も経つと、授業を落とそうか落とすまいかと毎日のように悩むようになりました。スピーチを用意していくのならまだいいのですが、アドリブで話すアクティビティもあり、私以外全員ネイティブスピーカーの中で、怖くて緊張して、絶対この授業を落とそうと思ったことがありました。しかし、いざ話しはじめてみると、意外にもすらすらと言葉が口から出てきました。さらに先日行ったスピーチでは先生から名前を挙げてほめていただき、留学に来たことで英語力が向上したと同時に、人前で話すことに慣れ、度胸がついたことを感じました。この貴重な機会を生かして、人前で自信をもって話せるように、真摯に授業に取り組んでいきたいと思っています。

・日本文化 (Introduction to Japanese Culture)

この授業では、日本語を専攻している学生3人と共に、日本文化について学んでいます。青木先生から勧めいただき履修することに決めましたが、日本で育ってきた私がこの授業を受けることに意味はあるのか、はじめは疑問を抱いていました。しかし、回数を重ねるごとに私の考えが浅はかだったことに気が付きました。授業では、外から見た日本についての資料をたくさん読みます。私たちが慣れ親しんで当たり前のように思っている文化や考え方が、日本を出てみると当たり前ではないこと、そしてそのひとつひとつには日本の歴史、自然などの背景があるということを学んでいます。日本人らしさとは何か、日本とはどのような国なのか、そのようなことを考えさせられる授業です。

・宗教学 (Pop Culture and Religion: Methods and Theories in the Study of Religion)

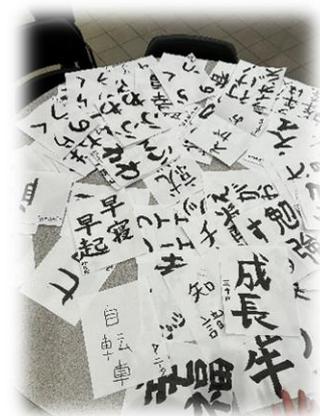
宗教とは何かをスターウォーズを通して考える、とてもユニークな授業です。ジェダイズムは宗教なのか、宗教を定義するものは何なのかなど、哲学的で興味深いです。クラスは私を含めて5人しかおらず、毎回ディスカッションをしながら授業が進んでいきます。難しい内容なので、意見を思ったように伝えることは難しいですが、ディスカッションは好きなので、必死に食らいついていきたいです。

・合唱 (choir)

秋学期に合唱の授業をとっていた留学生が何人かおり、楽しいと聞いていたので、私も11月から参加させていただいていました。今学期は正式に履修し、いまは春休みに行われるヨーロッパでのコンサートツアーに向けて練習しています。日本ではクラブ活動として行われる合唱、吹奏楽、演劇、美術などがアメリカの大学では授業として提供されており、学部に関わらず必修科目としてカリキュラムに組み込まれています。来月の報告書ではコンサートツアーについて報告したいと思います。

Diversity Day

Diversity Day というイベントが行われ、キャンパスツアーに来たフィンドレーの高校生と、英語を母国語としない留学生たちが、食事をしながら自国の文化を共有しました。アメリカの高校生から見た日本のイメージや、私たちがアメリカに来て感じた文化の違いを話す中で、スポーツの話になった時は同じ話題で盛り上がり、文化が違って同じことで笑い、熱くなるということを改めて実感しました。大谷翔平選手を知っているかと聞いたところ、当たり前だよ、彼は野球界のヒーローだととても熱心に語ってくれました。野球は詳しくないですが、日本人が世界で認められ活躍していることを誇らしく感じました。食事の後、バンラデシュ出身の友人が International Mother Language Day についてプレゼンをしてくれました。バンラデシュの首都ダッカがパキスタンの一部であった時代に、ベンガル語を公用語として求める運動が起こり、その出来事にちなんでユネスコが1999年に2月21日を国際母語デーと制定しました。言語と文化の多様性を守ることを目的としていて、言語はコミュニケーションツールであるだけでなく、文化そのものであるということを学びました。



本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 nagaim@findlay.edu

新年会での書初め

作成者：永井みちる

作成日：2024年3月11日

3月に入り暖かい日が増えましたが、いまだに零度を下回る日も多くあり、春の訪れにはまだ早いと感じる日々が続いています。残りわずかな留学生生活を、ここで出会った人々との時間を大切にしながら過ごしていきたいと思っています。今月は、International Mother Language Day、Blanchard Valley Hospitalの見学、Choir Concert Tourについて報告します。



International Mother Language Day

先月の報告書で少し触れましたが、2月21日は国際母語デーで、キャンパス内でイベントが開催されました。留学生たちが母国語で歌やダンスを披露し、それぞれの国の文化を伝える良い機会でした。このイベントに先立ち、文化の多様性を学ぶ授業を訪問し、日本語について発表をする機会をいただきました。2人の日本人留学生と共にプレゼンテーションを行い、私は「いただきます」「ごちそうさま」の二つの言葉、そして敬語を担当しました。特に苦戦したのは敬語の説明でした。小学校で学んだ記憶では、日本語には「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」があり、それぞれ目上の人に対して相手を上げる、目上の人に対して自分を下げる、そしてすべての人に対し丁寧に話すことによって相手への敬意を表すという単純な解釈でした。しかし調べていくうちに、私たちが社会の中で身に付けてゆく敬語はそれよりはるかに複雑だということに気が付きました。これは日本文化の授業で学んだことなのですが、敬語には日本社会で大切にされている「ウチとソト」の概念が深くかかわっています。簡潔に言うと、日本語では敬語を使う対象が同じであっても状況によって尊敬語と謙譲語を使い分ける必要があるというような話です。私の記憶にある限りでは習ったことはなく、日本ではごく当たり前のことですが、英語で日本の敬語について検索すると必ず出てくる概念です。英語にも目上の人に Mr. を付けたり、I'm gonna を省略せずに I am going to と丁寧な言い回しをしたりするなどして相手への敬意を表す方法があります。しかし日本語では言葉そのものが変わることから、日本文化では相手への敬意を表すことがとても重要だと分かると川村先生から教えていただきました。世界に出て日本を知るとい話は聞いたことがありましたが、まさにその通りだと感じました。

友人たちと訪れたクリーブランドのキャビンからの景色。エリー湖の向こうに見えるのはカナダ…？



International Mother Language Day
プレゼンテーション

病院見学

福井県立大学看護学科から、2月中旬に7人の学生が約2週間のプログラムでフィンドレーを訪れました。医療施設や小学校を訪れたようで、私もそのプログラムの一環として行われた病院見学に参加しました。訪れたのは、Blanchard Valley Hospital です。ここは150床を有する急性期医療病院で、幅広い分野の医療を提供している地域の中核病院です。今回はそこで働く社会福祉士の方からお話を伺い、また病棟を見学させていただきました。全ての病室が個室であり、各部屋にはシャワーとトイレが設置されていました。またすべてのカルテにアクセスできるパソコンが一台ずつ設置されており、患者にも、医師や看護師にも負担が少ない病院だと感じました。また入院期間が日本と比べると短いことなどを知り、良い学びの機会でした。また、何よりも、病院の中をしっかりと見学させていただいたことで、医師を志すと決意した時の強い気持ちを思い出すことができたことをうれしく思います。

Choir Concert Tour

今学期から履修し始めた Choir のプログラムで、春休みにヨーロッパへのコンサートツアーに参加しました。訪れたのは、チェコ、スロバキア、そしてオーストリアです。約1週間の滞在中、チェコで2回、スロバキアで1回のコンサートを行いました。コンサートは現地のいくつかの大学と合同で行われ、University of Hradec Králové の学生とは全3回のコンサートを共にしました。歌った曲は、“The Blue Bird”と“Little Birds”の鳥をテーマにした2曲や、“The Ground”といった賛美歌など、計8曲です。そして、コンサートの最後には、“Missa Festiva”と“I Sing Because I Am Happy”を、参加しているほかの大学の Choir と一緒に歌いました。また、コンサートの空き時間には約10人のグループのメンバーと一緒に食事をしたり、観光をしたりしました。どのコンサートもこれまでにないほど素晴らしく、立派な会場、たくさんの観客、そして美しい歌声がホールに響く空間はとても感動的でした。



2回目のコンサート
Olomoucにて



オーストリアで見つ
けた雑貨たち



オペラ鑑賞

このコンサートで良かった点は、現地の学生との交流ができたことです。特にチェコの University of Hradec Králové の学生とは長い時間を共に過ごし、一緒に食事をしたり街を歩き

回ったりする機会もありました。中には英語が苦手な学生もおり、私もよく気持ちが分かるため、お互いに一生懸命言いたいことを伝え合う中で一気に心の距離が縮まったように思いました。また、最後の夜にはウィーン国立歌劇場でオペラを見ました。演目はチャイコフスキーの『Eugen Onegin』です。マイクなしでも会場に響き渡る歌声と、きらびやかな衣装と舞台セットに圧倒されました。人生はじめてのオペラ鑑賞は素晴らしい体験でした。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 nagaim@findlay.edu

2023-2024 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3月

作成者：永井みちる

作成日：2024年4月10日

3月はイベントが盛りだくさんの忙しい一か月でした。今回は International night、インタビュー、Nursing Home の訪問、イースター、初めてのトルネードについてお知らせします。

International Night

3月8日に、大学の大きなイベントであるインターナショナルナイトが開催されました。このイベントは、留学生が自国の文化を学生や地域の人々に紹介する場で、各国のブースでは料理が提供され、ステージでは様々なパフォーマンスが行われました。私たち日本人留学生は、焼きおにぎり、みたらし団子、味噌汁、お茶を提供しました。当日は大盛況で、用意していた200人分の食事をすべて配り切ることができました。また、ステージパフォーマンスではYOASOBIの「アイドル」という曲でヲタ芸を披露しました。ヲタ芸は、コンサートでファンがアイドルを応援するパフォーマンスです。日本のアニメや漫画などサブカルチャーはアメリカでも人気があり、ヲタ芸も新しい日本の文化の一つとして多くの人に楽しんでもらうことができました。また、台湾、韓国、日本出身の留学生8人でバンドを組み、韓国の曲「Please Tell Me Why」を演奏しました。この曲は中国語でカバーされたものもあり、自分たちで歌詞を組み合わせてたり翻訳したりして三か国語で披露しました。

このイベントには10か国以上が出店し、14組のグループがパフォーマンスを行い、フィンドレーの多様性と国際交流の豊かさを改めて実感しました。学生たちだけでなく、地域の方々も足を運んでくださり、世界の文化に興味を持ってくださったことを心から嬉しく思います。



ステージパフォーマンス集合写真



ヲタ芸

インタビュー

スピーチの授業の課題で、二人の方にインタビューを行いました。スピーチのテーマは、自分が将来働く分野でのコミュニケーションの問題と解決方法で、その分野で働く方にインタビューする必要がありました。インタビューさせていただいたのは、フィンドレー大学の作業療法の助教であり、現役の作業療法士であるリサ先生と、大学のヘルスセンターで働く看護師のノエルさんです。初めてのインタビューでとても緊張していましたが、二人とも快く応じてくださり、丁寧に対応してくださいました。二人のお話を伺い、医療におけるコミュニケーションの重要性を再認識したと同時にその難しさも感じました。医療は医師や看護師だけでなく、作業療法士、ソーシャルワーカーなど、多職種が連携してチームとして働くことが重要です。リサ先生がおっしゃった、それぞれの職業の役割が違うからこそ、それぞれの主張があり意見が食い違うという話が印象的でした。学生のうちから、他の職種がどのような役割を担い、実際どのように働いているのかを知ることで理解深めることが必要だと感じました。臨床実習が始まる前に、こうして実際に働く方々のお話を直接伺うことができたのは素晴らしい経験でした。

Nursing Home の訪問

授業の一環でナーシングホームを訪問させていただきました。日本の食べ物についてプレゼンテーションをし、そのあと折り紙を一緒に折りました。川村先生にアドバイスをいただき、プレゼンテーションをする中でも質問をたくさんし、話すことより聴くことを大切にしました。話すこと、聴くこと、どちらにも難しさを感じましたが、とても楽しかったです。



プレゼンテーションの様子

イースター

3月最後の日曜日はイースターでした。イースターは、イエス・キリストが十字架にかけられてから3日目に復活したことを祝うキリスト教の祝日です。聖書は、イエス・キリストの死と復活によって、人間の罪が赦され、神との関係が修復されたと語ります。この出来事は聖書の中心的なストーリーで、イースターはクリスチャンにとって非常に大切なものです。大学では金曜日から月曜日まで授業が休みとなり、地域の教会では毎日のように礼拝が行われました。私は木曜日の夕方と日曜日の朝に礼拝に参加しました。友人によれば、アメリカでは普段教会に行かない人もクリスマスやイースターは家族で教会に行くことが多いそうで、日曜日の朝には普段よりも多くの方が教会に来ていました。また、金曜日と日曜日には教会で出会った方々が食事に招いてくださり、



イースターでは、エッグペイントやエッグハントをして楽しめます。

とても良い時間を過ごしました。クリスマスやサンクスギビングのような華やかさとはまた違った穏やかな雰囲気が町中に漂い、私にとってイースターが最も好きな祝日となりました。



キャンパス内にある教会に通うご夫婦が、
留学生のバイブルスタディグループ
をランチに招待してくださいました。



教会で知り合ったアンジェリーナさん。
姪御さんはアニメが好きで
日本語を独学で勉強しています。

初めてのトルネード

ダイニングホールで夕食をとっていると、携帯が一齐にアラームを鳴らし始めました。それは私にとって初めてのトルネードの警報でした。アメリカではトルネードは起こりやすい自然災害の1つで、トルネードが近づくと警報が鳴り、避難をしなければなりません。地下がある建物にいる場合は地下に行き、地下がない場合は一階の窓やガラスが少ないリビングルームやトイレに移動して、安全になるまで待ちます。ダイニングホールは窓が多く地下もないので、建物を移動する必要がありました。警報が鳴った直後に友人から電話があり、その友人の家の地下に1時間半ほど避難させてもらいました。電話がかかってきたときは、トルネードがどれほど危険であるかを理解していなかったため、「今すぐ家に来て」と言われて、思わず「何で？」と聞いてしまいました。幸いなことに、トルネードは大学を直撃しませんでした。初めての土地を訪れる際には、どのような災害が起こりうるかと、避難方法をあらかじめ調べておくことをお勧めします。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

nagaim@findlay.edu

2023-2024 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 4月

作成者：永井みちる
作成日：2024年5月9日

5月に入り、ついに9か月間の留学生活が終わろうとしています。4月は残り一か月を充実させるべく、様々な活動に取り組み充実していました。今回は、在デトロイト日本国総領事館、フィンドレー市長、フクビ USA への表敬訪問、日食、ミラクルフィールドについて報告します。

在デトロイト日本国総領事館訪問

在デトロイト日本国総領事館を訪問し、進藤総領事とお話させていただきました。私からは留学での経験を、進藤総領事はこれまで様々な国に行かれた中で印象的だったことをお話してくださいました。進藤総領事は様々な土地で山の色は何かと聞くそうです。日本人は当たり前のように山は緑だと答えますが、地域によっては他の色をこたえたり、そもそも山がないと答えたりする人もいます。オハイオ州は山がほとんどなく平らな地域です。山がないという答えにも納得しました。そのほかにもたくさんの経験を共有していただき、どの話もとても興味深いものでした。留学にきて私の世界は広がりましたが、まだまだ知らない世界がたくさんあるのだということを改めて実感しました。

その日の午後には、フィンドレー市長である Muryn 市長のもとを訪れました。Muryn 市長は以前日本を訪れたことがあり、またすぐに日本に行きたいとおっしゃっていました。お忙しいスケジュールの中でも日本とフィンドレーのことについて考えてくださっていることを感じ、感激しました。



フクビ USA

オハイオ州デイトンにあるフクビ USA を訪問させていただきました。フクビ USA は福井県に本社を構えるフクビ化学工業株式会社のアメリカ支社で、窓枠をはじめとした様々なプラス

チック製品を扱っています。はじめにフクビ化学についてお話を伺い、高い技術力を持つだけでなく、廃材の再利用によって環境に配慮した製品を作っていること、SDGs への取り組みで着実に成果を出していることなど、社会問題への真摯な取り組みのお話がとても印象的でした。工場見学では材料を混ぜるところ、製品を製造するところ、廃材を再利用できるような処理するところなどを見せていただき、大変興味深かったです。また、最後に社員の皆様に向けて留学で経験したこと、学んだことについてプレゼンテーションをさせていただきました。プレゼンテーションの準備を通してこの一年を振り返り、自分の中で得たものを整理することができました。発表は緊張しましたが、皆様が温かく見守ってください、楽しい時間を過ごすことができました。



日食

4月8日、オハイオ州で皆既日食を観測することができました。当日は様々な地域からフィンドレーに人が訪れることが予想されたため、交通安全のために授業はすべて休講になり、大学内では様々なイベントが行われました。当日は空に薄く雲がかかっていましたが、幸いなことに太陽を覆い隠すほどではありませんでした。日食が始まる30分ほど前になると大学内の広場にたくさんの人々が集まり始めました。私も友人と広場に行き、配られた日食グラスを片手に空を見上げて日食の開始を待ちました。その日は暑い日だったのですが、太陽が隠れ始めるとともに気温がだんだん下がり、あたりが夕方のように暗くなり始めました。太陽が完全に隠れた瞬間は、月の影から太陽の光が漏れ出し、神秘的な美しさに感動しました。友人によると、その場には皆既日食を見るためにイギリスやドイツなどの遠いところから訪れた方もいたそうです。



ミラクルフィールド

友人のケイティに誘われ、野球の試合を見に行きました。その試合には、ケイティが家族のように仲良くしているある一家の長男が出演しているということでした。彼は自閉症を持って

おり、試合に参加したのは障がいを持つ方々です。ミラクルフィールドというのはその試合が行われたフィンドレーにあるフィールドの名前で、一般的な野球場より小さく、地面はクッション性のある素材で車いすを必要とする方々に配慮されたつくりとなっています。また、試合には家族や運営団体の方だけでなく、フィンドレー大学のアメフトチームのメンバーがボランティアでサポートしていました。試合に参加する一人一人が、どのような障がいを持つかに関わらず全力で楽しそうに野球をしていたこと、また、手伝う人、観戦する人、すべての人が笑顔で、とても暖かかったことが印象的でした。ミラクルフィールドは住民の寄付によって作られたものだそうです。私もフィンドレーで過ごす間はマイノリティでしたが、マイノリティの方々が楽しみ、交流を持てる環境があり、それを支える人々がいることに感激しました。このような社会になれば、すべての人が生きやすい未来につながるのではないかと思います。私も帰国後、マイノリティの方の力になれるようなことをできたらと考えています。



おわりに

この9か月間、たくさんの人に出会い、たくさん挑戦をし、留学前は想像もつかなかったほどたくさんの学びを得ることができました。フィンドレーで過ごす一日一日が特別で、かけがえのない日々でした。綿谷さんと飯田さんをはじめとする福井県国際交流協会の皆様、フィンドレー大学の川村先生と青木先生、家族、友人たち、この留学を支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。この留学で得た経験を今後自分の人生に活かし、そして福井県に貢献していきたいと思っております。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 nagaim@findlay.edu